

# 小学校 第5学年 社会科 「情報を生かす産業」

## 育成を目指す資質・能力について

社会科、第5学年、「情報を生かす産業」において、タブレット端末とスプレッドシート、ミライシード(ムーブノート)を活用することで、コンビニエンスストアにおける発注作業を疑似体験させた授業実践例を紹介します。ICT機器を活用し発注作業の疑似体験を行うことで、お客さんや店長の立場を多角的に捉え、考えを伝え合う活動がより充実し、コンビニエンスストアでは、多くの情報を総合的に判断しながら活用していることを理解することができました。

- ・ 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。【知識・技能】

## 事例の概要

流れ	児童	教師
①	前時までの振り返りを行う。 コンビニエンスストアで使われている情報通信機器を確かめる。	イラスト資料を確かめながら情報活用のポイントをたしかめる。
②	学習課題をつかむ。 コンビニエンスストアでは、タブレットで確認できる情報をどのように活用し、発注しているのでしょうか。	
③	発注作業を疑似体験し、仕入れの数を確かめる。 スプレッドシートを使って、仕入れの数を入力し共有する。	情報が増えたことで、発注数が増えた理由を交流させる。
④	与えられた情報をもとに、ミライシード(ムーブノート)に仕入れを増やす商品を記入して提出し、すばやく考えを共有する。	ムーブノートで考えを共有することで、支援の必要な児童の手掛かりにさせる。
⑤	全体で交流する。	同じ情報をもとに商品を発注しても、人によって考えが異なることに気付かせる。
⑥	学習のまとめ、ふり返りをする。	

## 【事例におけるICT活用の場面】



コンビニエンスストアの店長役となり、スプレッドシートを使って仕入れの数を入力し、全体で共有する場面



条件を踏まえて発注する商品をムーブノートに書き込み交流する場面

## 【事例におけるICT活用のポイント】

- ① スプレッドシートで発注の数を共有・集計し、電子黒板に提示することで発注数の変化など素早く全体で確認させる。
- ② ミライシード(ムーブノート)で全員の考えを共有することで、情報の活用方法について多角的に捉えさせる。

【活用したソフトや機能】 電子黒板 スプレッドシート ミライシード(ムーブノート)